

平成 22 年 4 月 8 日現在

研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2007 ～ 2010
課題番号：19520692
研究課題名（和文） 開発と実践
－筑波山麓地域における地域づくり過程のアクター分析と政策的提言
研究課題名（英文） Development and Practice –Actor-oriented Analysis of the Process
of Community Development in Mt. Tsukuba area and its Policy Option
研究代表者
前川 啓治（MAEGAWA KEIJI）
筑波大学・大学院人文社会科学部研究科・教授
研究者番号：80241751

研究代表者の専門分野：文化人類学
科研費の分科・細目：文化人類学・民俗学
キーワード：開発研究、実践、地域づくり、アクター

1. 研究計画の概要

開発論および地域おこしの文献、筑波山麓地域の自然、歴史、文化、行政プロジェクトに関する資料のデータベースを作成する。

筑波山麓地域という空間をノーマン・ロングのいうソーシャル・フィールド（社会的な場）と捉えた場合、小田、北條、筑波、臼井、神郡、平沢など各地区は、その下位空間を構成するドメイン（空間領域）とされるが、実際にはソーシャル・フィールドとドメインは単純な階層構造ではないため、行政が設定する筑波山麓地域（旧筑波村）と各地区との関係性を見極め、地域づくりのアクターを特定し、アクター間の交渉過程を明らかにする。

2. 研究の進捗状況

大学および大学院での「野外調査法」の実習を通じて、筑波山麓地域におけるさまざまなインフォーマントへの聞き取り調査を指導・実施し、聞き取り調査の報告を整理した。

生態や伝承、生業、社会構造や世界観、個人の生活史、行政の関わり方などの全般的な調査のほか、生成しつつある地域おこしの運動に対する意識調査を実施した。

とくに小田、北條、筑波、平沢、筑波地区を集中調査し、その地区の視点から捉えた筑波山麓地域像を明らかにした。

また、地域おこしのリーダーなどのキー・パーソンにインタビューを試み、アクターとしての総合的把握とそれらアクター間の関係性を明らかにしてきた。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

（理由）

資料のデータベース化も進展し、フィールドワークの成果も報告書としてまとめている。

4. 今後の研究の推進方策

データベースに関しては、対象および地域を広げることによって更なるデータの蓄積を行い、データベースの更新を行う必要がある。さらに、従来の調査データから地域の現状分析を行い、今後の地域活性化に連なる展望を示してゆく。

5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔学会発表〕（計 4 件）

1. 前川啓治「空き地で交流・空き家に定住－茨城県北・常陸太田・筑波山麓北条の場合」『空き地で交流・空き家に定住』淡路島スローライフ・フォーラム〈南あわじ分科会〉2009年12月4日
2. 前川啓治「グローカリゼーションをマクドナルドから見る」『シンポジウム 浮上する 21 世紀のアジア II－人・モノ・カネのスパイラルー』筑波大学グローバル OB・OG ネットワーク 日本・韓国社会文化フォーラム、2009年12月21日
3. 前川啓治「マクドナルドから見えるもの」『2009年度第2回さんか・さろん』スローライフ・ジャパン、2009年8月18日

日

4. 前川啓治 「グローバルとローカルの二元論を超えて」 『シンポジウム グローカル研究の可能性－社会的・文化的な対称性の回復に向けて－』 成城大学民俗学研究所 グローカル研究センター、2009年3月9日

〔図書〕(計4件)

1. 前川啓治編 『平成20・21年度 野外調査研究報告書 筑波山麓地域Ⅲ』筑波大学人文社会科学研究科 社会・国際学群 国際総合学類、2009年
2. 前川啓治 「グローバルとローカルの二元論を超えて」上杉富之・及川祥平編 『グローバル研究の可能性－社会的・文化的な対称性の回復に向けて－』 成城大学民俗学研究所 グローカル研究センター、2009年、50－63頁
3. 前川啓治 「開く・援ける」『文化人類学辞典』日本文化人類学会編 丸善株式会社、2009年、612－617頁
4. 前川啓治編 『平成19年度 野外調査研究報告書 筑波山麓地域Ⅱ』筑波大学人文社会科学研究科 社会・国際学群 国際総合学類、2008年